

逗子の景観まちづくり

瓦版 第九十一号

かぐのみ小規模保育園

― 風景を継ぎ、子どもたちの原風景を育む ―
逗子市沼間には、山の緑と人々の暮らしがゆるやかに重なり合う風景があります。



沼間の街並みに寄り添う風景のような保育園

二〇二六年七月十五日 次号は十月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

私が初めてこの土地を訪れたとき、心を惹かれたのは建築のための敷地ではなく、このまちに流れる穏やかな時間でした。

朝の光が住宅地を照らし、風が木々を渡り、季節の気配が暮らしのなかに静かに息づいている。この保育園は、そんな沼間の環境を受け継ぎながら、子どもたちの原風景を育む場所として計画しました。

園舎は、大きな施設ではなく、小さな家々が集まる集落のような構成としています。周辺の住宅地のスケールに寄り添いながら、建物の間に庭や路地のような余白を生み出し、光や風、緑が自然に巡る環境をつくりました。まちなみの中で際立つ存在ではなく、地域の暮らしや自然と連続する風景の一部となることを目指しています。

保育室ごとに設けた庭には、月齢に応じた植物を植えました。沼間の風土に馴染む樹木や草花は季節ごとの表情を映し出し、子どもたちは日々の遊びのなかで花や実、葉の変化に触れながら成長していきます。地域の自然そのものが学びの場となることを願いました。

完成した建物は、それだけで完結するものではありません。子どもたちの笑い声が響き、木々が育ち、季節が巡ることで、この場所ならではの風景が少しずつ形づくられていきます。



子供の五感を育む保育室

幼い頃に見た景色や感じた風の記憶は、生涯にわたり心の奥に残り続けます。かぐのみ小規模保育園が、沼間という土地の魅力を映し込みながら、子どもたちにとってかけがえのない原風景となることを願っています。

二四九・八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号
「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」
電話 〇四六・八七三・一一一
ファックス 〇四六・八七三・四五二〇
machi@city.zushi.lg.jp



逗子の歴史今昔物語り / 源氏の大將が愛した地

～保元平治の乱を戦った武士・源氏親子が暮らした逗子沼浜とは～



◀ 源頼朝の父と兄が過ごした沼浜邸の時をたどる

かつての逗子湾は東逗子駅辺りまで海岸線が広がり今の沼間は沼浜と呼ばれた。そこに屋敷を建て暮らした源氏の大將が源義朝。そう、源頼朝の父親です。彼は朝廷内の派閥争いで後白河天皇に加担し、敵対する上皇を平清盛と共に戦い勝利。これが保元の乱。武士が政局を左右する時代の始まりです。

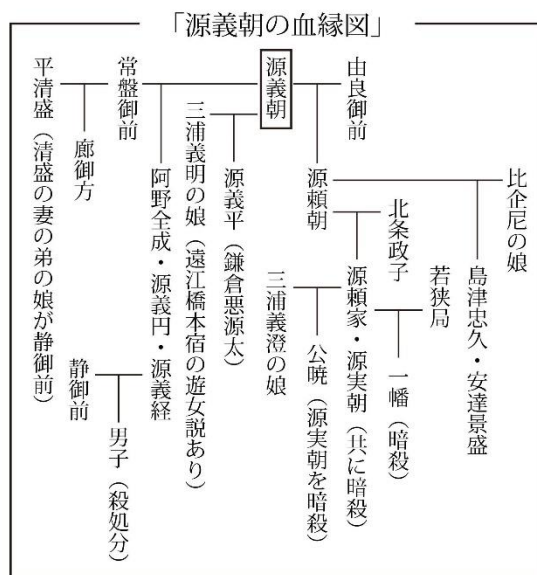
ところが、一緒に戦って勝利した平清盛は後白河天皇に厚遇され、一方の源義朝は冷遇される。納得のいかない時期を沼浜で過ごすこともあったでしょう。とはいえこの地は源氏を支える三浦一族の領地。心休まる場所だったのかもしれませんが。また義朝の長男・源義平もここから出陣して父とともに戦う。義平は武芸に秀で三浦一族を率いて活躍しました。

この父子が後白河上皇に反旗を掲げ平治の乱を起こす。しかし平清盛に敗れ命を失う。こうして源義朝・義平が沼浜に戻ることはなくなりました。時を経て、義朝の次男・源頼朝が関東の武士団を率いて平家を破り鎌倉幕府を創設。では、頼朝はこの沼浜邸をどんなふうにご利用したのでしょうか。

▼ 北条政子が沼浜邸を壊す理由は何だったのか？

逗子が歴史に記録されたのが奈良の正倉院。納められた供物に鎌倉郡沼浜郷との記述が残る。つまり当時の沼浜が今の逗子。そこに源氏の屋敷があったのです。頼朝の死後、沼浜邸を壊したのが源頼朝の妻・北条政子。彼女の夢に義父・義朝が現れ鎌倉に帰りたいと告げる。そんな理由から政子は沼浜邸を解体し、その資材から鎌倉に寿福寺を創建する。

ところが政子の眠る寿福寺に沼浜邸の資材が投入された形跡はない。全て廃棄された。政子にとって三浦の地・沼浜に源氏の屋敷があるのは許せなかったのでしょうか。頼朝の兄で武士に人気の義平は三浦義明の娘から誕生。さらに政子の長男・頼家の息子・公暁は三浦義澄の娘から生まれ、政子の次男・実朝を暗殺する。頼朝の妾・亀の前を政子は襲うのだが三浦義久の館に駆け込み難を逃れる。しかも頼朝は比企一族の娘との間に二人の男子を産ませ、その密会に沼浜邸を利用したらしい。政子が沼浜を嫌ったのも無理はないですね。(次回：なぜ沼浜は沼間になったのか)



絵と文と図 三浦 恒義



「まちなみデザイン逗子」実践認定

～認定箇所のご紹介／旧本多邸～

▼ 認定のポイント

旧本多邸は、昭和初期の貴重な建築物として、和洋折衷の美しい意匠を今に伝えています。山の根の丘陵地と調和する佇まいは、逗子の歴史ある景観の一部として、地域に開かれた魅力的な憩いの場となっています。

景観形成に寄与している建築物、工作物、外構、広告物、美化活動などについて一般募集を行い「まちなみデザイン逗子」実践スポットとして認定します。



認定事例・応募方法



旧本多邸

瓦版編集担当 逗子市環境都市部まちづくり景観課

逗子市のホームページにも載せています。ご覧ください。

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。